

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700268
法人名	医療法人青峰会
事業所名	グループホーム かざぐるま
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町大久1391 - 1
自己評価作成日	平成22年7月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「かざぐるま」は宇和海に面した温暖な気候の地で、利用者の方々が毎日のんびりと安心して、笑顔が絶えない生活が出来るよう支援しております。地域の保育所、小学校との交流も盛んです。利用者の方々も交流を通じて、可愛い子供達の元気な声や姿に、自身のお孫さんのことを思い出したり子育ての頃にタイムスリップしたりと、よい刺激を沢山頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

隣の保育園や小学校とは、行事を通して行き来があり、保護者の方との交流もある。事業所のクリスマス会には子ども達とともに保護者の方も参加くださったり、事業所の木の剪定をしてくださったこともある。ご家族の協力を得て、月1回、利用者をご自宅に戻って過ごせるよう支援されたり、友人が事業所に来られた際一緒に撮った写真を居室に飾り、時々話題にする等、ご本人が大切な人や場所を覚えておけるよう支援されている。

誕生日には、新鮮な魚の刺身や手作りケーキでお祝いをされている。食事中に姿勢が崩れる方には、クッションを用いて直したり、スプーンが持ちにくい方には、持ちやすい自助具を用意してご自分で食べられるよう支援されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム かざぐるま

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

金子 清

評価完了日

平成22年7月23日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 認知症であっても、一人ひとりが地域にとけ込んで当たり前に暮らせるよう謳った理念を掲げている。	
			(外部評価) 「認知症であってもひとりひとりが地域の中で当たり前前に暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」という理念を掲げ、ケアをすすめる上での「道しるべ」になるよう、管理者は、新人職員や研修の機会に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元の保育所、小学校などとの交流を通じて、父兄や地域の方々とも交流する機会を沢山もっている。毎朝の食材の買い物や地域行事には、できるだけ利用者を出かけて地域の方々と触れ合う機会を作るようにしている。	
			(外部評価) 隣の保育園や小学校とは、行事を通して行き来があり、保護者の方との交流もある。事業所のクリスマス会には子ども達とともに保護者の方も参加くださったたり、事業所の木の剪定をしてくださったこともある。事業所の前のグラウンドは、ゲートボールや地方祭、盆踊りが行われる場所となっており、事業所の玄関やウッドデッキから利用者は見物されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 学校の職場体験、施設訪問受入れなどの際に認知症についての説明や、グループホームの役割などを案内し理解を深めてもらえるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の現状、サービス内容、活動報告などを通して 出席者の方々より意見や感想などを今後のサービス向 上に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 昨年度は、運営推進会議の開催時期が新型インフルエ ンザのために不規則になったようである。開催日程に ついては、職員の勤務状況等も踏まえて決めるよう である。当初から介護相談員の方に会議に出席いただ いている。事業所の活動状況は、写真をモニターに映 し、見やすくして報告されている。</p>	<p>地域のいろいろな方に、事業所のことや認知症につ いて知ってもらえるよう、会議のメンバーを工夫され たり、日程等についても参加しやすいよう工夫をされ てみてほしい。又、さらに具体的にご意見をうかが えるような会議のすすめ方等も、工夫されてみては どうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入退去時や介護認定更新の際の情報共有、感染症予 防や事故防止などの取組み、又、研修会などで協 力し、連携している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターの担当者 から身体拘束について県の指針を教えていただ いたり、インフルエンザ等、感染症の対応につ いては、町の職員が直接回って来られ、指導 していただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人の勉強会や、ミーティングで機会あるごと に課題を取り上げて理解に努めている。玄 関にはドアチャイムを設置し出入りを感 知出来るようにし、施錠はしないよ うにしている。</p> <p>(外部評価) 「生命に関わる時以外は、身体拘束はしないこと」 を職員間で話し合っておられる。「利用者の自由 を尊重するために起こりうるリスク」につ いて、ご家族に説明して了解を得るよ うにされている。利用者が一人で 出かけていかれると、事業所前でゲ ートボールをしている方が教えてくだ さることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の勉強会や、ミーティングで機会あるごとに課題に取り上げて虐待の定義、規定に関して勉強している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 行政やグループホーム協会主催の研修会などに参加して学ぶ機会を持っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入退去の手続きの際は、相手の立場に立って丁寧に説明し理解や納得を得るように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の訪問時、家族の面談時、ケアプラン更新時、月1度の利用者の近況報告の際など意見を出したり聞いたり出来る機会を設けている。急ぎの件は直ぐに取り上げ、その他の事案はスタッフ会議で取り上げ、運営に反映出来るようにしている。	
			(外部評価) 毎月の状況報告は、利用者の様子や事業所の活動の写真を添えてご家族に郵送され、ご家族の来訪時には、要望やご意見を聞くようにされている。管理者は「ご家族同士の横のつながりも大切」と考えておられ、年に1回は家族同士が集う機会を作りたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 半期に一度の管理者面接や、ホームの月一回のスタッフ全体会議で意見や要望を聞く機会を設け反映するようにしている。	
			(外部評価) 職員は、日々気付いたことはその都度、管理者に伝えるようにされており、毎月のスタッフ会でも話し合っておられる。半年に1回、法人に要望を伝える機会があり、母体施設や病院に利用者が優先的に利用できるような要望されたり、ウッドデッキの修理等もされたようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内で人事考課表を取り入れ、努力や実績及び勤務状況などを把握して職員の評価を行っている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や勉強会、グループホーム協会の研修を順次受けるようにしている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内のグループホーム管理者の連絡会や、運営推進会議に地域の同業者を招いて情報交換を行いケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の思いや、今までの生活歴などを出来るだけ聴く機会を持ち、適切なケアの方法を探し出すよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の思いや、必要としていることをよく聴くようにして、ホームで出来るサービスを説明するようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ホームで対応出来ないケースの場合は、他の機関に相談したり、紹介するように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や掃除など、利用者と職員は協力し合っている。昔の出来事や地域行事など、職員は利用者から色々と教わったりしている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時や電話連絡などの際に近況を伝えて、それについての意見や要望を出してもらうようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の来訪時など利用者と一緒にホームでの暮らしぶりや、野外レクで出掛けた際の記念の写真を見て頂いたりして、関係の再構築などの援助を行っている。 (外部評価) ご家族の協力を得て、月1回、利用者をご自宅に戻って過ごせるよう支援されたり、友人が事業所に来られた際一緒に撮った写真を居室に飾り、時々話題にする等、ご本人が大切な人や場所を覚えておけるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの相性や、得手不得手を把握し、より良い関係が持てるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪していただけるよう、施設外であった際にも声掛けを行ったり、連絡を取るよう努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で意思疎通が困難な方にも、本人の視点に立って行動や表情などから、思いや意向を推し測るようにしている。 (外部評価) 知人やご家族から聞いたことやご本人の様子を個別の記録に記入するようになっていた。平成20年には、職員が利用者個々に担当して、センター方式のアセスメントをすすめておられたが、その後は、思いや意向について情報を蓄積したり、アセスメントすることはあまりないようだ。	利用者の「人間の尊厳を大切に生きていく」ことを支援することを大切にされている事業所でもあり、今後さらに、利用者個々の思いや意向の把握に努め、介護計画に反映していかれることが期待される。又、活用しやすいアセスメント様式等を工夫して、利用者一人ひとりの状態や意向を探り、さらに現状に即した計画の作成につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人や家族から生活歴などを聴き取るようにしている。入居後も昔の話や、若い頃の思い出などの会話を通して本人の生活歴や価値観などを把握するようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの、その日の過ごし方、体調、行動、言葉など記録を取り、変わった事や気づいたことなどを毎日申し送りをして職員全員が把握し共有できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) スタッフ会において利用者個々の状態を踏まえて意見交換を行い、介護計画を作成している。家族に介護計画書を送付する際や面会時に意見や要望を伺うようにしている。毎月モニタリング表を記入し介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価) 日々の記録やスタッフ会での意見を参考にして、ケアマネージャーが介護計画を立てておられる。毎月モニタリングし、変わりがなければ、3ヶ月に1回、計画を見直されている。自室の掃除や洗濯ものたたみ等「ご本人がこれまで行ってきたことを続けられる」ような支援内容になっていた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 食事、排泄や暮らしの様子など個別に記録し、変化や気をつけることがあれば申し送りや日誌に記入して職員全員が把握するようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の要望や状況に応じて通院、外泊支援など臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣地域の保育所、小学校とは緊密に交流があり協力して頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関から定期的に往診があるが、本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医に受診できるよう家族と協力しながら支援している。</p> <p>(外部評価) 近くの診療所が閉鎖したこともあり、少し離れた場所にある診療所にかかりつけ医を変更し、毎月、診療所から医師が往診に来てくれるようになっている。その他の日の往診はむつかしく、管理者が、受診に診療所までお連れしている。町外への通院は、ご家族のご都合によっては、職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 母体の病院より定期的に来訪してもらい、利用者の状態を毎日報告し、相談しながら健康管理を行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 利用者の情報を病院に提供し、情報交換に努めている。医師や家族と相談しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居契約時、本人や家族に医療連携の指針に基づき、重度化し看取りの必要が生じた場合の対応などについて説明している。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取りの指針を示し、説明をされている。「事業所と医療機関との移動距離があるために、事業所で看することはむつかしく、受けられない可能性がある」ことを説明されている。法人で、看取りについての研修会が行われており、管理者が出席されている。</p>	<p>利用者のご家族が「ここで最期を迎えたい」と希望された場合、事業所でできることを説明して、ご家族と協力し合って支援していくような取り組みも考えてみられてはどうか。運営推進会議時やご家族、職員とも話し合い、事業所でどのような支援ができるか話し合う機会にされてはどうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 法人内の看護技術勉強会に参加したり、消防署の救命講習を受けたりしている。急変時対応マニュアルの本も事務所に備えている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力や施設で災害非難、誘導訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。災害時は地元の消防団にも協力して頂けるようお願いしている。	夜間の災害を想定した訓練にも取り組んでいかれてほしい。居室で寝ている利用者が全員、安全に避難できる方法を全職員が身につけられるよう、話し合ったり訓練を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 年に2回、避難訓練をされているが、昼間を想定した訓練となっている。海に面した事業所のため、津波警報には注意されており、警報が発令された時には「裏の山道は急なのでワゴン車で避難」することになっている。2月に津波警報が出た時には、駐車スペースがありトイレのある町の施設「アグリトピア」で、警報が解除になるまで時間を過ごされた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を傷つけないように排泄の声掛けや誘導などは、さりげなく行うよう配慮している。全職員が個人情報保護法の理解に努め利用者のプライバシーに関わることを外部に漏らさないよう徹底している。	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は、トイレ誘導の声かけは小さな声でされていた。職員は「穏やかな気持ちで対応することを心がけている」と話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事やおやつ希望を聞いたり、食材の買出しに一緒に出掛けて選んでもらったり、出来るだけ利用者が決めたり選んだり出来るよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の意見を尊重するように心掛けているが、本人からの希望が出にくいので、色々工夫して出していただけに支援を心掛けている。買い物など外出した際は、本人に出来るだけ選んでもらうようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類などは家族に相談して持ってきて頂いたり、購入している。2ヶ月に一度散髪デイを設けて、出張理容室を開いている。特別の希望などがある場合には利用者家族に依頼している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材切りなど、出来るだけ一緒に調理を行うようにしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで、同じ物を食べて楽しく食事ができる様雰囲気作りを大切にしている。食卓テーブルを拭いたり、お盆を運んだり食器洗いなどの片付けを一緒にしている。	
			(外部評価) 献立は、法人内6つのグループホームで立てておられるが、食材の確保等、その時々事情に合わせてメニューを変更することもある。誕生日には、新鮮な魚の刺身や手作りケーキでお祝いをされている。食事中に姿勢が崩れる方には、クッションを用いて直したり、スプーンが持ちにくい方には、持ちやすい自助具を用意してご自分で食べられるよう支援されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がチェックしたものを使用している。食事や水分摂取状況を介護日誌に記録して、職員が情報を共有している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて職員が見守りをしたり介助を行っている。義歯洗浄剤も週一回使用して、口腔内の清潔保持を支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの、排泄パターンを把握し、定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価)	
			ご自分から立ち上がろうとする時にトイレにお誘いする等、利用者個々のサイン等をみながら支援されている。失敗された場合は、トイレで履き換えたり、汚れがひどい場合は、浴室で流してから着替えるようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事時には汁物を付け、繊維質を含んだ献立を心掛けている。午前、午後のお茶の時間など、こまめに水分補給を行い家事活動などで適度に体を動かすことで自然排便出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は出来るだけ入浴してもらえるようにしている。入浴できない日は、シャワー浴、足浴や清拭など利用者個々の状態に応じて支援をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			自分で準備をして「一人で入る」と言われる方は、職員がさりげなく見守っておられる。毎日入りたいと言われる方は、現在はおられないが、少なくとも2～3日に1回は、入浴できるようすすめておられる。	
			(外部評価)	
			日中、利用者一人ひとりの体調や意志に配慮しながら、出来るだけ体を動かして頂き、生活リズムを整えている。寝付けないときには、温かい飲み物などを提供するなど睡眠を促す工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中、利用者一人ひとりの体調や意志に配慮しながら、出来るだけ体を動かして頂き、生活リズムを整えている。寝付けないときには、温かい飲み物などを提供するなど睡眠を促す工夫をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の薬ケースを設置したり、服薬一覧表を作成し、薬品名、効能、副作用などを周知するようにしている。服薬時は本人に手渡したり、必要に応じて介助を行い、きちんと服用できているかの確認をしている。状態変化があった場合は、すぐに看護師や管理者に報告するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備や食器洗い、お盆拭きなどの後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみや掃除など自分から進んで職員と協働している。そしてその都度、感謝の気持ちを伝えるよう心掛けている。歌やテレビ鑑賞が好きな人など、希望に沿って採り入れている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調や天候に応じて、食材の買い物や散歩、ドライブに誘い、気分転換が出来るよう外出の支援をしている。	
			(外部評価) 海岸沿いの道を散歩されたり、庭で日向ぼっこをしたり、買い物に職員と出かける方もある。月に1回は皆で、花見や神社に参拝等に出かけておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が金銭管理を行えないので事務所が管理しているが、家族と相談して希望に応じて小銭を所持している方もいる。外出時に買い物体験をして頂くなどの支援をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があった場合は、電話をかけて話せるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>カーテンを利用して光を適切に調整したり、居間や廊下にはホームで撮影した利用者の写真を貼って、利用者が自分の住んでいる家だと安心感を持てるような工夫をしている。居間と台所が同じ空間にあり、食事を作っている様子や、御飯の炊ける匂いなど、生活感を感じられる工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前のベンチに座ると、目の前に青い海が広がり、裏には山があり、自然を感じることが出来る環境にある事業所である。居間の壁には、小学生が描いてくれた利用者の似顔絵が9枚飾ってあり、廊下には、行事時に撮った写真が多く貼ってあった。廊下をモップで掃除してくださる利用者もある。以前デイサービスで利用していた空間は、現在、運営推進会議や行事の際に使用されている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールにはソファやマッサージチェア、玄関にはベンチを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に使いなれた家具、装飾品などを持って来て頂く様に案内をしている。持ちこまれる品が少なく、殺風景になりがちなので、ホームで撮影した写真や学校児童との交流の際のプレゼントなどを飾って工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入口には、名札とご本人の顔写真を貼っておられる。ご自宅で使っていたタンスや衣装ケースを持ち込まれている。蘭が、今年も花を付けたと喜んでいる方がおられた。保育園の行事に参加した時、もらったレイや千羽鶴も大切に飾られていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室の入り口には利用者本人の写真を貼ったり、手作りの表札をかけて分かり易いように工夫している。トイレや浴室の札位置を目線の位置に付けたり、大きくするなど工夫している。</p>	